平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1270200932		
法人名	特定非営利活動法人　縁　会		
事業所名	グループホーム　ゆかりの里		
所在地	千葉市花見川区千種町380番地6		
自己評価作成日	平成22年12月20日	評価結果市町村受理日	平成23年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4　千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成22年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

人と人との縁を大切にしたいと縁会と名付けられたNPO法人、「ゆかりの里は良い介護をしている」と世間様より認められるには現状を打破することも、常識を疑ってかかることも必要と思う。介護の理念、明確な目標を持ち、それが評価されて初めて与えられる。介護職に対して誠実・志といったものを根っこの部分に持たないと良い介護は生み出せないように思い、何かにつけ話合っている。昨年度も取り上げましたが、特に認知症の人が最期まで住み慣れた環境の中で暮らすには、沢山の課題があり、確かに私達は医療面は手薄です。ここが安心できる場としてようやく馴染んだ方が、医療行為が発生し退去せざるを得ない時は悲しい別れでもあります。厚生労働省は痰の吸引等、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑも含めて考えていただいているが、ターミナルケアを行うためにはまだまだ問題は山積みである。認知症の方達に尊厳を持って暮らしていただく為の努力を私達は惜しみません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所が力を入れている「認知症の方達に尊厳を持って暮らしていただく為の努力を私達は惜しみません」は運営の中の随所に表れている。入居者のその人らしい暮らしを維持するため管理者・職員が多大な努力をしていることが窺える。管理者の信念・理念が職員に反映されて、自信を持ってケアを行っている。ターミナルケアに対して積極的に取り組んでいるが、医療行為とのはざまで悩んでいる。よりよい介護サービスが実現してゆくよう、今後ともホーム側から発信を続けていくつもりである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆかりの里の理念はいつも見える様に事務所に掲示し、職員会議を通して迷ったときは理念に立ち返る。人権の尊重、基準となる目標を達成し続けるプロセスが必要と努力している。	管理者の信念・理念が職員に反映され、職員は自信を持ってケアにあたっており、管理者と職員の間の強い絆を感じる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は毎日の散歩・やまびこ推進会議・100円セールふれあい広場・クリスマスパーテーなど日頃より交流を持っている。	今年度はキャラバンメイトの活動に3回参加した。毎日の散歩では近隣住民と声を掛け合って交流を深め、運営推進会議などへの住民の参加も日常的に実践されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症のｷｬﾗﾊﾞﾝﾒｲﾄとして看護師と二人三脚で交流を持ちながら地域にいかしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	やまびこ推進会議と名付けられ、地域の沢山の方達によって運営され、貴重な意見交換がなされ活かされている。	今年度の運営推進会議は4回開催し、自治会長をはじめ近隣住民に参加してもらい、グループホームの運営に対して率直な意見を聞いて、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当の方に何かあると相談し、利用者にとっての一番良い方法を模索しご意見を頂いたり連携をとっている。	市町村担当者とのコミュニケーションを取る努力を地道に続けており、医療行為に及ぶようなことに対しても相談できる環境作りができてきつつある。	グループホームにおける医療行為を含めた介護サービスの提供は重要な課題である。今後とも市町村にホームの考え方を伝えていきながら、連携を取っていくことを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険行為察知出来ない男性に、ご家族と話し合い、市町村にも相談した経緯もある。拘束のしないｹｱに取り組み、ご家族とも何度も話し合い代替え案を出したり総出で取り組んだ。	車いすを使用する場合においても、そのことが身体拘束に当たらないのか、家族や職員間で何度も議論している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員が悩むのは指導的な入居者の言葉が虐待に値するのではないか？その場の空気を変えながら対応している。研修を申し込んでいるが応募者が多く回ってこないのが現状である。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見受任活動中の方がﾎﾞﾗﾝﾃｲｱとして入居者と関わってくださり、又やまびこ推進会議で講演して頂いた。地域の方・ご家族より好評であった。今後も活用できるように支援したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険制度が変わった時は、家族会で説明し参加できない人には文書を送付しご理解頂きながら進めてきた。又職員間でもご家族に説明できる様共に学びあい、家族に理解頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時は必ず声掛けし、聞くようにしている。ご家族の状況、利用者の一寸変わった事・心配なこと・望むことなど一緒に考え、運営に反映させている。	家族会で意見を聞いたり、家族来訪時に声かけをして入居者や家族の要望等を聞き、ホームの運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族からの提案は職員間で話し合い決まったことを直ちに実行に移して毎月のお知らせで報告している。	職員会議などで意見を聞く機会を設けて、運営に反映するようにしている。また、管理者は職員の相談にはいつでも乗るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備については心がけている。休憩時間は特に身体を休ませるようにお互い声かけしあっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修は知識・介護技術は勿論の事、職員の精神の中に見えない部分での誠実さの様な人間学を取り入れることがベストに思い日頃より話題にして取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	花見川区の交流会への参加、同業者同志、行事に呼んだり、呼ばれたり交流を持っている。千葉市ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ連絡会の勉強会には参加し横の繋がりを持って質の向上に繋げている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ｾﾝﾀｰ方式のひもときシートを利用し「行動・言葉」の意味を本人の立場で意味付けし、何の為に、どうしてと心の中ををさぐりよせ本人の気持ちに共感できる様に関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの情報を出来るだけ職員に多く伝える、入居当初は不安で一杯になるので職員が密着して傾聴し、不安や訴えをくみ取り、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望者に対して入居に至るまでの状況・在宅で一番困ったこと、入居してからの不安、面会・外出・散歩・買い物・ゆかりの里での暮らしの支援等説明し理解頂くように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所に職員と一緒に立ち、調理・片付け・盛りつけ又洗濯物干し、拭き掃除をしたり、賑やかで主婦の顔そのもの、沢山の有り難うを言わせていただき感謝をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の予定と、ゆかりの里便りを送り、ﾎｰﾑ内の生活がｲﾒｰｼﾞ出来る様にし面会時は必ず声掛している。家族会の力を借り行事等にも積極的に参加型を目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月1回の利用料の支払いを現金でお願いし、面会には全員こられる、お部屋に一緒にお茶を運んだりしている。現在は2名の方に友達が来たりしている。より良い関係づくりを目指している。	入居後間もない人については特に気を配り、訪ねてくる友人に食事を用意したりして関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を理解し、利用者同士の関係を把握しながら、トラブル等を考慮し、孤立しないようにデイサービスに届け物、近所に回覧板を廻したり外部の方とも深められるように努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療行為等で退去された方には病院に見舞うこと度々あり、病院より退院を進められている方には特養ホームへの入居に3名繋げている。又コーラス隊として交流訪問し共に楽しんでいる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情などから本人の訴えを聞くようにしている。職員間で情報交換したり対応し、把握しきれずに我慢させている部分も多々あるかもしれず、夜間帯に時間をかけて聴くようにしている。	入居者の状態によっては細かい意向の把握は困難であるが、小さな発信を見逃さず、関わる時間を多く取るようにして、思いを感じるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使いご家族の力を借りながら生活歴を埋めて仕上げている、本人の言葉より思いを把握しケアプランに表すように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態はバイタルチェックで把握し、散歩やお手伝いは有する能力に応じて声掛けしながら一人ひとりの精神面での把握にも力を入れています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度モニタリングを実施し、全職員で検討を行い、担当者会議にご家族も出席し介護計画作成に反映させている。	本人の意向は随時把握し、職員同士は信頼関係ができていて、家族も含め全体がひとつのチームとなって、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には、医療面は全て記載、その他生活面においてはいつもと変わった事項は記載し介護計画見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院以外の利用者の通院は付添料をいただき支援、その時々に発生するニーズにも対応し、面会時間が昼時にかかった場合は入居者と共に食事を提供している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人が安全で豊かな暮らしを楽しめるように努力し、自治会への加入、回覧板の受け渡しは入居者のみで持っていったりし、会話を楽しんでいる様子。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療は月2回、ご家族の希望するかかりつけ医の方もおり、通院も利用者に応じて支援している。ご家族受診については情報提供し適切な受診できるように支援している。	必要に応じてかかりつけ医への通院を支援している。ホームでは訪問診療や看護師による相談日も設けており、入居者は健康面で安心した日々を送っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態観察で気づいたことは、看護師に相談し適切な処置や受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連携し、利用者が入退院した際はご家族の意向も取り入れて、安心して治療出来るように努めている。又医療機関関係者と連絡を取りながら情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明しており、方針の共有化が図られている。ターミナルケアを意識した介護展開を行っている。	すでに看取りの経験があり、職員全体でターミナルケアを支援している。看取りの支援の経験前と後では職員の意識が大きく変化し、チームとしての結束が強くなった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニアルを整備し、全ての職員が対応できるように努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練年2回、行方不明者捜索訓練年2回実施し訓練時は消防・警察からのアドバイスをいただきながら行っている。	災害時避難場所になっている高校の校庭はフェンスで囲まれ、入口まで距離がある。ホームの近くのフェンスに出入り口を設置するよう以前から依頼しているが、未だ解決できずにいる。消防署立会いの訓練には地域住民も参加している。	災害対策はここまでで良いということはない。今後も引き続き避難場所の出入り口について依頼をしていくとともに、さまざまな状況を想定した訓練を定期的に実施していくことが期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように心がけ、言葉掛けにも注意している。認知が進み危険行為等回避出来ない方には仲間よりも職員が先に気づきさりげなく対応している。	一人ひとりを大切にした自然な声かけで、人格を尊重したケアがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を優先し、自己決定が出来る問いかけや声かけに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課は決まっているが本人の生活リズムに会わせ自由に過ごしている。希望や要望があった場合、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で着替えはするが好きな衣類が季節にあわない等、本人の好きな物とお洒落れ、身嗜みがあわず、職員は本人を認め乍らも、自己決定が出来る問掛けや言葉掛けに配慮している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方（7名）には準備・片づけ等一緒に行い食事が楽しくなるような雰囲気作り、又食事会議にも利用者と共に考え好みを取り入れている。	対面式キッチンで、その人の力に応じて食事の準備等に参加している。また、職員と一緒に食材の買い出しに行ったり、近所からの差し入れがあることあり、職員も一緒に楽しく食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々にあった栄養のバランスに対応をしており食事量の少ない方、水分量の少ない方にはケース記録に記載している。食事量の少ない方にはエンシュア缶で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導のもと食後の歯磨き、入れ歯の手入れ、誤嚥性肺炎にならないようにしっかり食後の歯磨きの習慣、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はオムツを減らし感覚のない人・指示の入らない人にも自パンツ＋パットで誘導し快適な生活を送って頂いている。	さりげなく、早めに誘導することで、日中はオムツをしないで過ごせるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の人が多い、繊維質のおやつ取り入れ、水分量を記入、便秘への取組み、又ｱﾛｰｾﾞﾝで調整、それでもでない時はﾚｼｶﾙﾎﾞﾝ挿入、力む事を忘れた人には腹圧・時間を掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏場はシャワー浴を毎日取り入れている方もおり、最低でも週3回支援している。毎回拒否する方もいるが、洋服を脱いでしまえばゆっくり湯に浸かり喜ばれる。	二人で一緒に入りたいという希望など、一人ひとりの要望に合わせて入浴できるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆様は日中ソファでウトウトする方もおりますが、皆様何某かをしている。比較的に早め就寝です。入眠剤は入居時に持参されるが使用している方はおりません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については副作用等把握している。３人の目で（遅番用意、夜勤者確認印、各担当飲み込み確認）誤薬のない様に服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゆかりの里では計算ドリルが好きな人、歌の好きな人、編み物が好きな人、失語症になった方に一生懸命関わってくれる入居者がいたりお互いに良い関係を保っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望には添えないが皆様散歩大好き、午前中は8名の方が寒暖に関係なく出かける。何時も外に行きたい人は市役所、国保連買物、精米所に出かける。ご家族にも来園時散歩に連出して欲しいとお願いする事もある。	緑が多い環境で近くには公園もあり、散歩にはよく出かけている。また、食材などを買いに出る事もある。	家族やボランティアの協力も得ながら、できるだけ一人ひとりの希望に沿った外出支援がされると、さらに良いと思われる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様に入居者の財布を確認し、1,000円～2,000円程度小遣いを財布に入れて欲しいとお願いすると、入居者は喜んでお小遣いを頂いたと知らせてくれる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	最近はTELを掛けたいと訴える人は少なくなった。お手紙を書ける方もいなくなり、絵手紙を書いたときはご家族に投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼ホールは冬場は採光を取り入れて暖かい、暖房費の節約になるが、目一杯の日差しにまぶしいと言われる時有り、テーブルを移動したりして居心地の良い環境を工夫している。	中庭のある明るいリビングは、ガラス越しに入る日差しが暖かく、ゆったりと寛げる雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長いすは3脚、1脚は常時横になっている男性が使用、認知があり仲間に怒られている方は居場所があるとはいえない状況、職員が沢山関わるが嫉妬があり十分とはいえない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には全室エアコン完備され空調管理は適切、持込みの禁止はしていないが、ふらつきのある方にタンスとかの持ち込みを待って頂いている方もいる。ご家族の写真・趣味の作品が飾られている。お仏壇持参されている方もいる。	各居室の大きな窓からは庭が見え、開放的である。また、仏壇を置いたり、家族の写真を飾るなど、それぞれが自分らしい部屋を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー、各所に手すり設置、グループホームとして家庭的な環境を保ちつつ何度も話あい建設された。その時々により入居者に合わせた手すり等の配慮に工夫している。		